

教授就任記念講演

皮膚疾患に対する新たな治療の試み

金 蔵 拓 郎

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻感覚器病学講座皮膚疾患学
(原稿受付 平成19年1月10日)

I. 緒 言

皮膚科診療の重要な対象として、全身症状を伴う皮膚疾患、あるいは全身疾患に伴う皮膚症状がある。厚生省特定疾患治療研究事業の対象で、いわゆる難病に指定されている膠原病もこの範疇に含まれる。膠原病以外にもこの範疇の難治性皮膚疾患として、膿疱性あるいは関節症性乾癬、ベーチェット病などの好中球性皮膚疾患ほか多くの疾患が挙げられる。これらいわゆる難病の診療をしていると、難病とは教科書に記載されている治療では良くならない疾患であるということを痛感する。そのような経験を重ねる中で、私は臨床医として難治性の皮膚症状に対する新たな治療を考えるようになった。本稿では、これまでに私共が試みて効果が確認できた新たな治療について紹介する。

者のQOL (quality of life) に大きく影響する。我々は強皮症に対する長波長紫外線療法 (PUVA療法) の効果を検討した。32歳から61歳の8例に対してPUVA療法を行い、臨床効果をhand closureとskin sclerosis index (SSI) で判定した。Hand closureは可能な限り手指を屈曲した時の中指の指先と基節関節の距離で示し指のこわばりを評価する (図1)。SSIは厚生省 (旧) 強皮症調査研究班による皮膚硬化の判定法で皮膚のつまみあげやすさで示



II. 強皮症に対する長波長紫外線療法

強皮症の手指の皮膚硬化は日常の動作の妨げとなり患

図1. Hand closure = 指(爪)先と基節関節の距離

筆者のプロフィール



- ◆1983年3月 鹿児島大学医学部卒業
 - ◆1983年6月 鹿児島大学医学部附属病院皮膚科 研修医
 - ◆1985年1月 鹿児島大学医学部皮膚科 助手
この間昭和1988年1月から1989年12月まで鹿児島大学第二生化学教室 (村松喬教授) で研究に従事
 - ◆1991年4月 国立都城病院皮膚科 医長
 - ◆1993年4月 鹿児島大学医学部附属病院皮膚科 講師
 - ◆1996年4月 米国テネシー大学リウマチ学講座生化学部門 (Visiting Researcher)
 - ◆1998年4月 鹿児島大学医学部附属病院皮膚科 講師に復職
 - ◆2001年1月 鹿児島大学医学部皮膚科 助教授
 - ◆2003年4月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
先進治療科学専攻感覚器病学講座皮膚疾患学 助教授 (組織改編)
 - ◆2006年9月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
先進治療科学専攻感覚器病学講座皮膚疾患学 教授
- 専門分野 膠原病, 皮膚の分子細胞生物学
認定医 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
所属学会 日本皮膚科学会, 日本研究皮膚科学会, Society for Investigative Dermatology
日本皮膚悪性腫瘍学会, 日本生化学会, 日本アフェレス学会
日本アレルギー学会, 日本リウマチ学会, 日本リンパ網内系学会 他
その他 中南大学湘雅醫院 (中華人民共和国長沙市) 客座教授

